

## 今日のキーワード 『街角景気』は消費増税直前以来の高水準

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手やコンビニエンスストアの店長など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。10月の『街角景気』は、現状判断DIが2カ月連続で改善し、消費増税直前の駆け込み需要があった2014年3月以来の高水準となりました。街角の声を、当社独自のテキストマイニングにより分析した結果も併せてご紹介します。

### ポイント1 現状判断DIは2カ月連続改善 先行き判断DIは+3.9ポイントと大きく改善

- 10月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月の51.3から+0.9ポイント上昇して52.2と、2カ月連続で改善し、消費増税直前の駆け込み需要があった2014年3月以来の高水準となりました。内訳を見ると、企業動向関連、雇用関連がそれぞれ+4.1ポイント、+3.3ポイント改善しました。一方、家計動向関連は▲0.5ポイント低下しました。10月は衆議院選挙や、台風など天候不順の影響により、小売関連や飲食関連の客足が伸び悩んだことが低下につながりました。
- 先行き判断DIは前月より+3.9ポイントと大きく改善して54.9と、2013年12月以来の高水準となりました。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全てでDIは改善し、現状判断では低下した小売関連、飲食関連も改善しています。

### ポイント2 ウォッチャーのコメントを分析 「不安」コメントは減少

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法(\*)によると、10月は選挙関連や台風などの天候要因に関連したコメントが増加しました。一方、北朝鮮や不安に関連する単語の使用頻度は減少しました。先行きについても同様に、不安に繋がるコメントは減少した一方、良い、株高、安定などのポジティブな単語の使用頻度が増加しました。株高や、政治の安定への期待がウォッチャーの景況感改善に繋がっていると見られます。



(\*) テキスト(文書)をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

### 今後の展開 消費は回復基調を維持

- 内閣府は、基調判断を「着実に持ち直している。先行きについては、人手不足や海外情勢に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」と据え置きました。株高による資産効果もあり、高額商品の消費の伸びは高まっており、天候要因などによる一時的な低下が解消されれば、家計動向関連は堅調な推移が期待されます。

ここもチェック! 2017年10月24日 『衆議院選挙』の結果と今後の展望  
2017年10月12日 『街角景気』、現状の基調判断を上方修正

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。